



TITLE:

<報告>—学生相談カウンセラーから見た新型コロナウイルス感染拡大をめぐる動向について--国内外の動きと本学・カウンセリングルームの対応を振り返って--

AUTHOR(S):

和田, 竜太

CITATION:

和田, 竜太. <報告>—学生相談カウンセラーから見た新型コロナウイルス感染拡大をめぐる動向について--国内外の動きと本学・カウンセリングルームの対応を振り返って--. 京都大学学生総合支援センター紀要 2020, 49: 73-83

ISSUE DATE:

2020-08-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/254122>

RIGHT:

一学生相談カウンセラーから見た 新型コロナウイルス感染拡大をめぐる動向について ——国内外の動きと本学・カウンセリングルームの対応を振り返って——

和田 竜太¹

【要約】

2019年末に「原因不明の肺炎」として中国・武漢で初めて報告された新型コロナウイルス（COVID-19）は、またたく間に世界中に拡散し、深刻な事態となっている。日本においても2020年3月中旬～下旬から急激に感染者が増大し、4月7日に7都道府県に出された緊急事態宣言は4月16日に全国に拡大され、「不要不急」の外出自粛が要請される事態となっている。本稿では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う国内外の動きや、本学やカウンセリングルームの対応を振り返りながら、一学生相談カウンセラーである筆者から見たその動向について述べた。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う様々な事柄は誰しもが体験したことのないものであり、あらゆるところでその状況に翻弄されながら手探りで対応を模索していることであろう。本稿での振り返りが今起こっている事態についての後の検証の素材の一つにでもなればと思う。

【キーワード】

新型コロナウイルス、学生相談、危機対応

1 はじめに

2019年11～12月頃に「原因不明の肺炎」として中国・武漢で初めて報告された新型コロナウイルス（COVID-19）は、またたく間に世界中に拡散し、今や世界では感染者570万人強、死亡者35万人強（2020年5月30日現在）、日本でも感染者16,804人、死亡者886人（2020年5月29日現在）という深刻な事態となっている。日本では2020年1月16日に国内で初めて感染者が確認され、しばらくは1日あたり数人～10人程度の感染者であったが、3月初旬あたりから少しずつ増えはじめ、3月中旬～下旬からは一気に感染者増加のペースが上がり、4月11日には1日708人の新規感染者が確認されるに至った。4月7日に7都道府県に、4月16日には全国に緊急事態宣言が発せられ、外出自粛の要請が出されたことで人々の外出・移動・接触が大幅に減った効果もあってか、新規感染者が判明するペースは徐々に下がってきている。その後、5月14日には39県で緊急事態宣言が解除となり、5月21日は3府県で、5月25日には残る5都道府県で解除されたことで全国に出されている緊急事態宣言は全て解除された。それでも、完全に新型コロナウイルスを排除できた訳ではなく、今後第2波、第3波がやってくる可能性が指摘されている（新型コロナウイルス感染症対策専門家

¹ 京都大学学生総合支援センターカウンセリングルーム 講師

会議，2020）。本稿を執筆している2020年5月末時点では上記のような状況である。

ところで、今回の新型コロナウイルス感染拡大に関連して、その拡大防止の対策においてよく使われている言い方で、「不要不急の外出は自粛してください。」という言葉が筆者の印象に強く残っている。この「不要不急」という言葉を聞いて、筆者の中ではある本がぱっと思い浮かんだ。それは、筆者が今でも時折ふと思い出して読むことのある、宮脇俊三の『時刻表昭和史』（筆者の手元にあるのは正確には『増補版 時刻表昭和史』（角川文庫，2001年））という本である。それは宮脇の自伝的小説であり、1926（大正15）年に出生し幼少期から鉄道や時刻表に惹かれた宮脇の目から見た、その時代の世の中の動向や空気感、人々の様子などが描き出されている。俯瞰ではなく、一人の人の目から見た景色を通してその時代がこうも生き活きと見えてくるものなのか、と私にとって読む度に感銘を受ける本である。その本の中で、太平洋戦争が泥沼化していった昭和15年あたりから出てくるのが、その「不要不急」という言葉であり、「不要不急の旅行はやめよう。」というポスターが駅々に貼られるようになったことが触れられている。これまでこの本を読む際、筆者の中でこの「不要不急」という言葉は、どこか遠い過去のこととして、自分からはかけ離れたことのように捉えていたところがあった。しかし今回の新型コロナウイルス感染拡大に伴って、「不要不急」という言葉がここまで使われるようになってきていることに、まさかこうした事態・状況が訪れるとは、と驚きと戸惑いを禁じ得ないところが今もある。

そして、もう一つ、この『時刻表昭和史』に関して思うのは、上記にも述べたように一人の人から見た景色を描くことで、その時代のありようというものが感じられることがあるのだ、ということである。今回の新型コロナウイルス感染拡大状況においては、筆者はただただその渦中にある存在、という程度である。それでも、筆者から見た景色を書き記すことで、新型コロナウイルスをめぐる状況を捉える際の何らかのピースの一つにでもなればと思う。

本稿を執筆している2020年5月末時点でも、未だ新型コロナウイルス感染拡大の終息は見通せず、今後の情勢を想像することも困難である。それでも、こうした事態はその場その場の対応で手いっぱいとなり、後になってみると、いつ・どのようなことが起こり・そこでどのように対応したかなどを記す余裕もなく、どんどんと過ぎ去って行きかねないもののように思われる。そこで本稿では、未だ先の見通せない状況ではあるが、本稿を執筆している2020年5月末までの時点で、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、世界・社会にどのような動きがあり、またそうした中で筆者が所属している京都大学学生総合支援センターカウンセリングルームではどのように対応してきたか、あくまでそこに属している一学生相談カウンセラーの視点から、ということにはなるが、そうした状況の渦中にある一人の視点から振り返ることで、いつか改めてより全体を振り返り、検証することがあった際の素材の一つとなれば、また手探りの中で対応を模索してきた（そして今も模索し続けている）その道のりが何かの参考になればと思う。

2 新型コロナウイルス感染拡大に関わる国内外の動向をめぐって：2020年1～3月まで

今回、本稿を執筆するにあたって、まず新型コロナウイルスをめぐる国内外のこれまでの動向に

ついて、時系列的に大まかにまとめてみることにした。表1は、厚生労働省（2020）、内閣官房（2020）、外務省（2020）、WHO（2020-1および2020-2）、北海道（2020）、朝日新聞デジタル（2020）、共同通信社（2020）、THE PAGE（2020）および筆者の個人的なメモをもとに、国内外の新型コロナウイルス関連の主な出来事についてまとめたものである。こうしてまとめて振り返ってみると、なかなか胸の苦しくなるような5か月間だったな、と思わずにはいられない。

筆者自身が一番最初に「原因不明の肺炎」あるいは「新型コロナウイルス」という響きに接したのはいつだったのか、すでに記憶が定かではない。ただ、筆者の自宅の録画機のハードディスクには、たまたま2020年1月9日放送のNHK「ニュースきょう一日」が録画されたまま消されずに残っており、本稿の執筆を思い立ってから改めてその録画を見返してみた。すると、そのニュース番組の中ですでに新型コロナウイルスのことが取り上げられていた。どのように取り上げていたかを見てみると、ニュースの中盤（トピックの5つ目）で「中国 原因不明の肺炎 新型のウイルスか」というタイトルで取り上げられており、「中国・武漢で相次いでいる原因不明の肺炎、日本でも警戒が強まっています。成田空港では注意を呼び掛けるポスターを設置するなどして警戒を強めています。WHOは原因不明の肺炎について「新型のウイルスの可能性が否定できない」としています。」との内容なのだが、内容的にはこれが全てで拍子抜けするほどあっさりとは短く伝えている。本稿を執筆している2020年5月末時点からすると、（そもそもNHK「ニュースきょう一日」はできるだけ簡潔な形で伝えるスタイルのニュース番組ではあるがそれにしても）1月9日時点の報道はこの程度のあっさりしたものだったのだな、と改めて感じる。とは言え、1月9日の時点で筆者はすでにこのニュースに接していた訳であるが、そのことは覚えてはおらず、おそらくこの時点ではあくまで外国の話であって自分にも大いに関係してくることになる話であろうとは思っても寄らなかったであろう。

その後は徐々にニュースでも大きく報じられるようになり、また春節の休暇で中国からの観光客が日本にも多く訪れる可能性が高い状況を思い、だんだんと「これは日本にもやってきそうぞ。」と思うようになっていったと記憶している。

そして、筆者は、1月26日～28日まで兵庫県の有馬温泉で開催された第53回全国学生相談研究会議に宿泊参加した。まだこの時点では多くの人数が集まる集会・催しを行っていたのであり、今思うと、その集まりが開催されたこと自体、本稿を執筆している5月末からすると隔世の感がある。その報告書（全国学生相談研究会議・第53回全国学生相談研究会議実行委員会、2020）内の写真を見てみても、ちらほらとマスクをしている参加者が見受けられるが、多くの参加者はマスクをせず参加しており、これもほんの4か月前のことにも関わらず、世の中が大きく変わったことを実感させられる。この集会は観光地でもある有馬温泉で開催されたこともあって、泊まっていた宿にも、お土産物屋が立ち並ぶ商店街にも、おそらく中国からの観光客と思しき人がかなり見受けられた。すでにこの時点で筆者自身、「もしこの中に感染者の人がいたら自分ももしかしたら…」という危機感があったことを覚えている。幸いにも（おそらくではあるのだが…）そのようなことにはならなかったが、1月下旬くらいにはもう我が事として捉えていたのであった。

その後、2月3日に横浜港に入港したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」で多くの感染

表1. 新型コロナウイルスをめぐる国内外の動向

年	日付	出来事
2019	12月31日	中国・武漢市での原因不明の肺炎発生を中国保健当局がWHOに報告
2020	1月6日	厚生労働省が初めて武漢での原因不明の肺炎発生について発表(武漢渡航者への注意喚起)
〃	1月9日	中国・原因不明の肺炎患者から新型コロナウイルス検出を発表
〃	1月10日	中国・春節の帰省ラッシュが始まる
〃	1月16日	日本国内で初の感染者確認(武漢への渡航歴のある30代男性)
〃	1月23日	中国・武漢市が交通機関の停止を発表(事実上の都市封鎖)
〃	1月24日	中国・春節の大型連休が始まる
〃	1月27日	中国・海外への団体旅行を中止
〃	1月28日	日本人で初の感染者確認(武漢からの観光客を乗せたツアーバスの運転手)
〃	〃	新型コロナウイルス感染症を「指定感染症」に指定する政令を閣議決定(2月1日施行)
〃	1月29日	武漢からのチャーター機第1便が帰国(以降2/17の第5便まで実施)
〃	1月30日	WHOが「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」を宣言
〃	2月5日	クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」横浜港で船上隔離開始
〃	2月11日	WHOが新型コロナウイルス感染症を「COVID-19」と命名
〃	2月13日	新型コロナウイルス感染症による国内初の死者確認
〃	2月14日	政府、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議を設置
〃	2月19日	「ダイヤモンド・プリンセス号」で陰性の乗客の下船開始(〜3/1までに全乗客・乗員が下船)
〃	2月22日	名古屋高速で料金収受会社の事務員が感染、濃厚接触職員の自宅待機のため6料金所が閉鎖に
〃	2月24日	専門家会議「これから1〜2週間が急速な拡大に進むか、収束できるかの瀬戸際」
〃	2月25日	政府、新型コロナウイルス感染症対策の基本方針を発表
〃	2月26日	北海道内の小中学校で2/27からの臨時休校決定
〃	2月27日	安倍首相が全国の小中高・特別支援学校に3/2から春休みまでの休校を要請
〃	2月28日	北海道が独自の「新型コロナウイルス緊急事態宣言」発表
〃	2月29日	東京ディズニーリゾート、ユニバーサルスタジオジャパンが休園開始
〃	3月4日	国内感染者1,000人超え
〃	3月5日	政府、中国・習近平主席の来日延期発表
〃	〃	外務省、3/9から中国・韓国で発給済みのビザの効力停止を発表
〃	3月7日	世界の感染者10万人超え、アメリカ・ニューヨーク州で非常事態を宣言
〃	3月9日	専門家会議「一定程度、持ちこたえている」「3つの条件の重なりを避ける行動を」
〃	3月11日	WHOが新型コロナウイルスの世界の流行状況を「パンデミックとみなせる」と表明
〃	3月12日	イタリアやフランス、スペイン等で学校の休校や店舗の営業停止、外出制限が始まる
〃	3月13日	新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正法(改正特措法)成立
〃	〃	アメリカ、国家非常事態を宣言
〃	3月19日	専門家会議「オーバーシュート(爆発的患者急増)が起りかねない(3月19日の提言)」
〃	3月20日	3連休初日
〃	3月24日	東京五輪の1年程度の延期を発表
〃	3月25日	東京都小池知事が週末の不要不急の外出自粛を要請「3密を避けて」
〃	3月26日	国内1日あたりの感染者が100人超え
〃	3月27日	イギリス・ジョンソン首相、新型コロナウイルス感染判明
〃	3月29日	志村けんさん死去
〃	3月31日	国内感染者2,000人超え
〃	4月1日	専門家会議「医療体制がひっ迫しつつある地域が出てきている」
〃	4月3日	世界の感染者100万人超え
〃	4月7日	政府、緊急事態を宣言(7都府県を対象に5月6日まで)
〃	4月11日	国内1日あたりの感染者708人(2020年5月末現在で1日あたり最多人数)
〃	〃	世界の死者10万人超え
〃	4月16日	政府、緊急事態宣言を全国に拡大し、13都道府県を特定警戒都道府県に指定
〃	4月18日	国内感染者1万人超え
〃	5月1日	専門家会議「新しい生活様式の定着が必要」
〃	5月4日	政府、緊急事態宣言の5月31日までの延長を決定
〃	5月14日	政府、39県で緊急事態宣言を解除(8都道府県では継続)
〃	5月21日	政府、3府県で緊急事態宣言を解除(5都道府県では継続)
〃	5月25日	政府、緊急事態の解除を宣言
〃	5月29日	専門家会議「次なる波への備えを」

者が発生し、2月5日から船上隔離が開始されたことが連日報道されるとともに、徐々にイベントが中止になるなどの影響が出始めた。国公立の大学入試の2次試験は、前期日程が2月下旬にあり、京都大学では2月25日、26日（および一部学部・学科で27日も）であったが、消毒や換気、マスクの着用などの対策を取りながら辛うじて実施することができた。これも、翌2月27日に政府から全国の小中高・特別支援学校に休校の要請が出され、急激に危機感が高まったことを勘案すると、実施可能なギリギリのタイミングだったのだな、と思わざるを得ない。実際、後期日程は多くの大学で中止の判断がなされたのであった（本学の唯一の後期日程試験である法学部の特色入試は対策を取った上で実施された）。

このあたりの時期の動向で筆者の印象に強く残っているのは、2月22日に名古屋高速で料金収受会社の事務員に新型コロナウイルス感染が判明し、その濃厚接触者である料金収受等職員52名が自宅待機となったため、6料金所が閉鎖されることになった、という報道であった（名古屋高速道路公社、2020-1）。この時点ですでに国内でもクラスター発生が次々と判明してはいたが、このような形でクラスターが発生することでインフラが危うくなる可能性があるのだ、ということを感じる具体的な事象であった。新型コロナウイルスの感染拡大が、場合によっては、電気・ガス・水道等の基本的なインフラとともに、電車等の公共交通機関も含めて、生活を支える様々な方面に大きな影響を及ぼす可能性があることを実感した。（なお、上記の料金所閉鎖については、2月25日よりETC無線通行車の通行が、3月6日より全ての車の通行が可能となった（名古屋高速道路公社、2020-2および2020-3））。

3月に入ると、いよいよ多くの集会やイベントが中止となり、筆者に関わりのある研修会も中止が相次ぐようになった。それでも、一部の会議ではまだ実際に集まって行われていたし、電車に乗ってもまだまだマスクをしていない人も多く見受けられた。筆者も3月に入ってもまだ勤務中にマスクはしておらず、学生との相談の際も通常通りの対面でマスクもせず臨んでいた。

このことは書き残しておこうと思ってあえて手帳に書き記してあるのだが、筆者が勤務中にマスクを常にするようになったのは2020年3月16日からであった。表1にまとめた国内外の動向を振り返っても、なぜそのタイミングだったのか、これという決定的・具体的な何かがあったのかピンと来ない。ただ、新規感染者の推移を見てみると、徐々に感染経路の不明な新規感染者が増え始めた頃であり、おそらくは、「いつ、どこで自分も感染しているか分からない。」という危機感から、万が一自分が感染している場合に他の人への感染を少しでも防ぐため、という思いで勤務中常にマスクをするようになったものと思われる。学生との相談中にもマスクをしているのは、最初特に息苦しく感じ、なかなか慣れなかった。それに、マスクをすることで顔のかなりの部分を覆うことになり、重要なコミュニケーションの要素である表情が遮られることの難しさも強く感じた。（なお、本稿を執筆している5月末現在では全ての相談が遠隔（オンラインまたは電話）となっており、その多くがオンラインでの面談のため、画面越しではあるがマスク無しで相談を行っている。対面でマスクをして面談を行うのと、オンラインでマスク無しで面談を行うのと、もちろん一長一短がある訳であるが、いずれにしても方法としての悩ましさは非常に大きく、その効果や影響について日々考えさせられているところである）。

新型コロナウイルスに関わるこれまでの時系列的に振り返ってみて、3月中旬～3月下旬が特に、状況悪化のペースとしても、また筆者自身の気持ちの持ちようとしても、非常に厳しいものがあったと感じる。印象として残っているのは、3月24日に東京五輪の1年程度の延期が発表された翌日から急激に新規感染者が増えたことであり、また、イギリスのジョンソン首相の感染判明や志村けんさんの死去が次々と伝わってきて、より一層重苦しさを覚えた。各地の学校では卒業式が次々中止となり、本学も例外ではなく、3月23日と24日に予定されていた大学院学位授与式と卒業式がいずれも中止となった（合わせて4月7日の入学式も中止となった）。

3 本学およびカウンセリングルームの対応をめぐって：2020年4～5月まで

今、筆者がたどることができる京都大学における新型コロナウイルス関連の対応の一番最初なのは、1月29日付けで本学環境安全保健機構 健康管理部門から出されている「新型コロナ・ウイルス肺炎に関する情報」（京都大学、2020-1）である（その後「新型コロナウイルス感染症に関する情報」として第4報まで改訂されている）。また、1月31日付けで本学から「新型肺炎（コロナウイルス）に対する本学の方針について（第1版）」が発出されており、そこでは中国への渡航自粛要請や、中国からの帰国者への注意喚起と帰国後2週間の自宅滞在の要請等が行われている（なお、この「新型コロナウイルスに対する本学の方針について」は5月31日現在で第7版まで改訂されている）（京都大学、2020-2）。2月に入ると、筆者の学内個人メールアドレスには毎日何通もの新型コロナウイルス関連の学内対応メールが届くようになり、本学での対応も各方面で様々な形で行われてきた。特に授業に関しては、4月1日付けで総長名で「令和2年度 授業の実施の変更について」が発出され、専門の一部の授業を除いて基本的に全ての授業を5月6日まで休講とすることが通知された（京都大学、2020-3）。また、4月14日には「新型コロナウイルス感染拡大に伴う活動制限のガイドライン」（以下、「活動制限のガイドライン」）が策定され、そこではカテゴリー1：授業（講義、演習、実験、実習）・課外活動、カテゴリー2：学内会議の実施・職員の勤怠、カテゴリー3：研究活動の各カテゴリー毎にレベル段階に応じた対応の基準が示されている（京都大学、2020-4）。その他、経済的に厳しい状況にある学生への支援や、授業のオンライン化に伴ってインターネット環境が整っていない状況にある学生への支援、教職員の業務についての対応等々が行われているところである（京都大学、2020-5）。

ところで、カウンセリングルームにおける表立った新型コロナウイルス関連の対応の最初は、3月9日付けで、以下の内容でホームページのお知らせ欄に掲載するとともに、ルームの入口扉に掲示を行ったことであった。

来談される方へのお願い

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、以下の点に留意してご来談ください。

1. 発熱、咳など風邪様の症状がある時、または流行地域から帰国後2週間の体調観察期間中には来談しない。

2. 1の状態だが、やむをえず相談したい場合は、電話や Skype などの方法も可能なので、担当カウンセラーに申し出る。

3. 来談時には手を洗うか消毒する。

カウンセラーはマスク着用で対応することがありますのをご了承ください。

来談者やスタッフにウィルス感染事例が出た場合には、感染拡大を防止するために、保健所や大学から当該時期に来談した方のリスト提供を要請されることがあります。その場合には必要な範囲の情報を提供する場合があります。もちろん、関係者には業務上知った内容について個人情報保護の義務があります。

おひとりだけの問題ではなくなりますので、なにとぞご協力をお願いいたします。

また、この前後にはルーム入口にアルコール消毒スプレーを設置し、来談者に適宜手の消毒を行ってもらえるようにした。

4月7日には7都府県を対象に緊急事態が宣言されたが、この時点では京都はその対象には含まれなかった（4月10日には京都府と京都市から政府に対して緊急事態宣言の発出の要請が出されている（京都市，2020））。それでも、カウンセリングルームでは、当面、緊急事態宣言の期限である5月6日まで対面での相談を避け、遠隔での相談に移行していくことを決め、4月8日付けで新たに以下の内容をホームページに掲載しルーム入口に掲示を行った。

カウンセリングルームを利用する学生の皆さんへ

カウンセリングルームでは、新型コロナウイルスの感染予防のため、さしあたり5月6日までの間、対面での相談はできるだけ避ける方針となりました。

その間、電話、スカイプ、Zoom などを用いた遠隔でのカウンセリング（ビデオ通話もしくは音声通話）を中心的に行います。メールでの相談も受け付けます。

通信環境、相談へのニーズ、得意なコミュニケーション様式など、皆さんそれぞれに様々な違った事情がおりでしょう。専門的観点から、遠隔カウンセリングには対面カウンセリングとは異なったところがありますので、遠隔カウンセリングでの目標や目的をあらためて検討することが必要になるかもしれません。相談の方法やそれに伴う目標や目的の修正などについては、カウンセラーに希望を伝えて話し合ってください。

なお、本学教職員のテレワーク実施方針に伴い、今後当ルームでも通常より少ないスタッフでの対応となる可能性があります。電話対応が困難となる場合も考えられますので、新規の相談をご希望の場合には、できるだけ当ルームのメールアドレス（本部構内カウンセリングルーム：counseling@mail.gssc.kyoto-u.ac.jp、カウンセリングルーム桂分室：k-counsel@mail.gssc.kyoto-u.ac.jp）宛てにメールでお申し込みいただきますようお願いいたします。

刻々と変わる状況を注意深く見守り、感染症拡大予防における本学の方針に沿いながら、皆さんに提供する相談を最適なものにするための道筋を模索していきたいと思います。

誰にとっても非常に困難な時期であり、当ルームとしても手探りではありますが、皆さんの

ご協力を得ながら適切に対応していきたいと思います。

以上、よろしくお願いいたします。

遠隔相談への移行は、正直なところ完全に手探りであった。筆者自身、それまでオンライン相談を実施したことはなく、恥ずかしながら Skype も使ったことがなかった。京都大学ではオンライン授業のためのツールとして学生にも Zoom の使用を通知していたこともあり、Zoom を使った相談を中心に試行錯誤しながら準備を進めていった（念のため、Skype も使えるよう準備を行った）。遠隔相談に移行する旨の決定がなされる前から準備を始めていたこともあって、なんとか 4 月 15 日までに筆者が担当している相談の全てが遠隔での相談に移行が完了した。

さらに、4 月 16 日には全国に緊急事態が宣言され、13 都道府県に指定された特定警戒都道府県に京都も含まれることになった。それに伴って、4 月 17 日付けで本学の「活動制限のガイドライン」(京都大学, 2020-4) の対応レベルがレベル 3 に引き上げられた。これを受けてカウンセリングルームでは、スタッフが出勤する日数を週 2 日ずつに減らし、業務を絞る対応を取ることを決めた。合わせて、4 月 17 日付けで以下の内容をホームページに掲載しルーム入口に掲示を行った。

カウンセリングルームを利用する学生の皆さんへ

京都府も緊急事態宣言の対象となりました。カウンセリングルームでは、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、大学の活動制限ガイドラインにもとづき、スタッフが出勤する日数を減らし、業務を絞ることになりました。

利用する皆さんには、すでに遠隔でのカウンセリングをお願いしていますが、さらに時間の短縮、相談間隔をあけること、相談の休止、などについて、カウンセラーからお願いすることになります。その節はご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

また、受付での電話対応はほぼ困難になります。当ルームへのご連絡は、メールでいただけますようよろしくお願いいたします。

(本部構内カウンセリングルーム：counseling@mail.gssc.kyoto-u.ac.jp, カウンセリングルーム桂分室：k-counsel@mail.gssc.kyoto-u.ac.jp)

今後さらに、大学の活動制限のレベルが上がる場合は、さらに出勤を制限し相談業務はメールのみとする状況になる可能性もあります。

日々変化する状況を注意深く見守り、皆さんに提供できる相談体制を可能な範囲で維持していきたいと思っています。

なにとぞ協力をよろしくお願い申し上げます。

上記の対応は、緊急事態宣言が 5 月 6 日以降も延長されたため、結果的に、京都に出されていた緊急事態宣言が 5 月 21 日に解除され、本学の「活動制限のガイドライン」がレベル 2 に変更された 5 月 22 日までの約 1 ヶ月強の間、続けられることになった。

この間は、対面での相談を見合わせ、オンラインや電話による遠隔での相談となっただけではな

く、スタッフの勤務日数の減少により相談枠が大幅に減ることになったため、相談日時の変更や予約日の先延ばし、1回の相談時間の短縮、相談間隔を長くするなど、カウンセリングルームを利用する学生には苦渋の願いをせざるを得なかった。苦しい状況の中で様々な形で協力いただいた学生達にはこの場を借りて感謝の意を表したい。

数字としては出せていないのだが、個人的な印象としては、遠隔での相談に移行したことで、今のところ8割程度がZoomによる相談、2割程度が電話による相談となっているという感触である。すでに述べたように、Zoomは本学のオンライン授業で多くの学生が使用している状況にあり、Skype等他のオンライン手段よりも使うハードルが低いツールとなっていることが推察される。

一方、スタッフの出勤を減らしたことで、通常なら日々の勤務の中でちょっとした機会に話することができなくなり、情報の共有や意志の疎通、対応の確認等々が非常に困難となった。スタッフ間の情報共有と協議のためにSlackを導入するなど今も模索を続けているところである。

そして、5月22日付けで本学の活動制限がレベル2に下がったことを受けて、5月25日付けで以下の内容についてホームページへの掲載とルーム入口への掲示を行った。

カウンセリングルームを利用する学生の皆さんへ

京都府に出されていた緊急事態宣言が5月21日に解除されました。それに伴い、5月22日付けで本学の「活動制限のガイドライン」における対応レベルが、レベル3からレベル2に変更されました。

しかしながら、現状において新型コロナウイルスが完全に抑え込まれた状況ではなく、今後も感染拡大防止対策の継続が求められています。

カウンセリングルームにおいても、本学の活動制限レベル3時点からいくらか緩和しつつも、通常よりは出勤するスタッフを減らす対策を今後も当面継続します。また、本学の活動制限レベル2が継続している間は、対面での相談は見合わせ、電話やZoom等を用いた遠隔での相談を原則とします

そのため、引き続き遠隔での相談をお願いするとともに、相談時間の短縮や相談間隔をあげることで、相談日程の変更などについてカウンセラーからお願いする場合がありますこと、何卒ご了承ください。

また、当面通常よりスタッフを減らしての業務となりますので、当ルームへのご連絡はできるだけメールでいただきますようお願いいたします。

（本部構内カウンセリングルーム：counseling@mail.gssc.kyoto-u.ac.jp、カウンセリングルーム桂分室：k-counsel@mail.gssc.kyoto-u.ac.jp）

今後も状況の推移を注意深く見守り、感染拡大防止に関する本学の方針に沿って、当ルームでの相談業務を適切に継続していく所存です。

引き続きご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

5月25日からはスタッフの出勤を週3日まで戻し、緊急事態宣言後の感染者数の推移を見ながら、

段階的にさらなる緩和を図っていく方針となっている。なお、5月末現在、引き続きほぼ全ての相談が遠隔での相談となっている。

4 おわりに

「一学生相談カウンセラーから見た」とのタイトルを付けたものの、ほぼ事実の羅列のような内容になってしまった。それでも、また何らかの形で今起こっていることを振り返る際の手がかりにでもなればと思う。

新型コロナウイルス感染拡大は未だ終息した訳ではない。緊急事態宣言解除後も新たな感染者の判明は続いている。直近では、東京都小金井市の病院で5月29日までに職員や患者16人の感染が判明し（NHK、2020-2）、また5月29日には福岡県北九州市で26人の感染者が新たに確認され（西日本新聞、2020）、病院や特別養護老人ホームでクラスター感染が起こったとみられている。このように、一時的には感染者数が減ったものの、依然として新たな感染者が判明する可能性は充分にあり、特にクラスターの発生については予断を許さない状況が続いている。

カウンセリングルームにおいても、これからまだまだ、新型コロナウイルスの動向に翻弄されながら、そして手探りしながら、その対応・あり方を模索し続けていくことになるであろう。

[文献・参考資料]

朝日新聞デジタル. 東京100days 新型コロナウイルスの記録. https://www.asahi.com/special/coronavirus/tokyo-100days/?iref=pc_special_coronavirus_top（閲覧日：2020年5月30日）、2020年.

外務省. 海外渡航・滞在. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/index.html>（閲覧日：2020年5月30日、31日）、2020年.

北海道. これまでの緊急事態措置・宣言等. <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tkk/koronasengen.htm>（閲覧日：2020年5月29日、30日）、2020年.

厚生労働省. 新型コロナウイルス感染症について. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html（閲覧日：2020年5月29日、30日、31日）、2020年.

共同通信社. 中国、春節前に帰省ラッシュ開始 30億人が大移動. <https://www.47news.jp/4403899.html>（閲覧日：2020年5月30日）、2020年.

京都大学. 新型コロナウイルス感染症に関する情報 Information about the novel coronavirus（2月26日更新）. <https://www.hoken.kyoto-u.ac.jp/blog/2020/04/02/> 新型コロナ・ウイルス肺炎に関する情報 /（閲覧日：2020年5月31日）、2020年-1.

京都大学. 【在学生・教職員向け】新型コロナウイルスに対する本学の方針について（第7版）. http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/events_news/office/soumu/news/2019/200327_1.html（閲覧日：2020年5月31日）、2020年-2.

京都大学. 令和2年度授業の実施の変更について（2020年4月1日）. http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/events_news/office/kyoiku-suishin-gakusei-shien/kyomu-kikaku/news/

- 2020/200401_1.html（閲覧日：2020年5月31日），2020年-3.
- 京都大学. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う活動制限のガイドライン. http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/foundation/coronavirus/documents/200417_2.pdf（閲覧日：2020年5月31日），2020年-4.
- 京都大学. 新型コロナウイルス感染症への対応. <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/foundation/coronavirus/>（閲覧日：2020年5月31日），2020年-5.
- 京都市. 緊急事態宣言の要請について（4月10日）. <https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000268358.html>（閲覧日：2020年5月31日），2020年.
- 宮脇俊三. 増補版 時刻表昭和史. 角川文庫，2001年.
- 名古屋高速道路公社. 料金収受会社事務員の新型コロナウイルス感染について. <https://www.nagoya-expressway.or.jp/files/news/file/eef6f84b52de0d839e93575706c6f5c6.pdf>（閲覧日：2020年5月31日），2020年-1.
- 名古屋高速道路公社. 名古屋高速道路で閉鎖中の入口（6料金所）で無線通行のETC車の通行を可能とします. <https://www.nagoya-expressway.or.jp/files/news/file/f8ff4736c8584ca7b1d5628e393340ee.pdf>（閲覧日：2020年5月31日），2020年-2.
- 名古屋高速道路公社. 無線通行のETC車のみ通行可能な入口（6料金所）について，現金車等も通行可能になります. <https://www.nagoya-expressway.or.jp/files/news/file/adb94a362db3187a00e57c1440051a87.pdf>（閲覧日：2020年5月31日），2020年-3.
- 内閣官房. 新型コロナウイルス感染症対策. <https://corona.go.jp/>（閲覧日：2020年5月29日，30日），2020年.
- NHK. ニュースきょう一日（2020年1月9日放送），2020年-1.
- NHK. 東京 小金井の病院で新たに患者7人感染確認 新型コロナ. <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200529/k10012450671000.html>（閲覧日：2020年5月30日），2020年-2.
- 西日本新聞. 新型コロナ，北九州市で新たに26人感染 特養で10人クラスター. <https://www.nishinippon.co.jp/item/n/612589/>（閲覧日：2020年5月30日），2020年.
- 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議. 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（令和2年5月29日）. https://corona.go.jp/expert-meeting/pdf/jyoukyou_bunseki_0529.pdf（閲覧日：2020年5月30日），2020年.
- THE PAGE. 新型コロナウイルス「これまで起きたこと」時系列で振り返る. <https://news.yahoo.co.jp/articles/e771c91302c1758d3c6f23788119c60130125452>（閲覧日：2020年5月29日，30日），2020年.
- WHO. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）WHO 公式情報特設ページ. https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/news/COVID19_specialpage（閲覧日：2020年5月30日），2020年-1.
- WHO. Pneumonia of unknown cause – China. <https://www.who.int/csr/don/05-january-2020-pneumonia-of-unknown-cause-china/en/>（閲覧日：2020年5月30日），2020年-2.
- 全国学生相談研究会・第53回全国学生相談研究会議実行委員会. 第53回全国学生相談研究会議（有馬シンポジウム）報告書. 2020年3月31日発行.